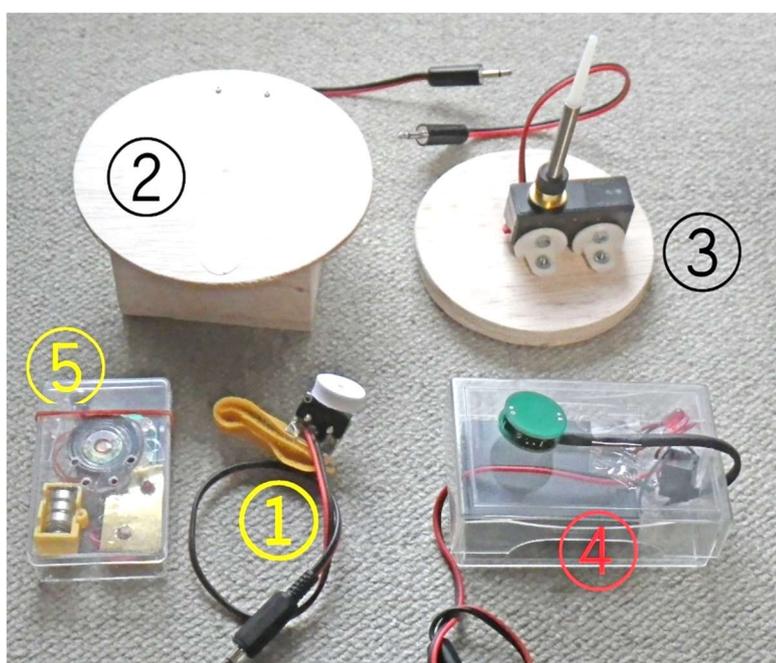


扱いやすい補助スイッチを作ってみました

おもちゃの電源スイッチは、小さめで、目立たない所にあります。時にはおもちゃドクターも探すに難儀する事がある程です。

障がいのある子どもさんにとっても、おもちゃの目立たず小さなスイッチは、操作が難しい場合があるという事で、先輩のドクターたちが「補助のスイッチ」の外付けを考えて来られました。総称して「教材スイッチ」という呼び方もあるようです。

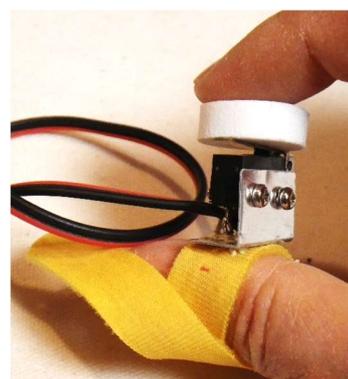


その先輩たちの成果の一端を
做って、①～④の4種類の
スイッチを試作してみました。
⑤はテスト用のモニターです。

いずれのスイッチも、触り易さを
第1にし、おもちゃ本体にはプラグ
で接続します。

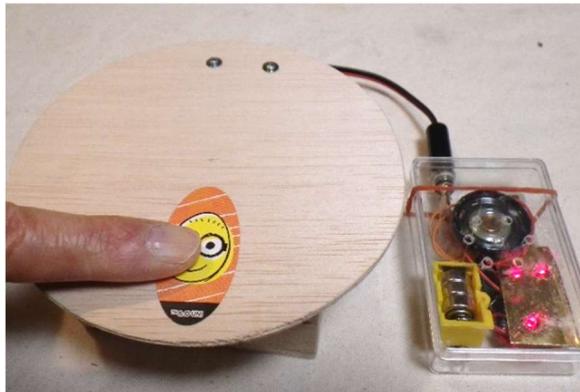
① 指スイッチ

マイクロスイッチを指先に巻き付け、押すものです。
写真左は親指で、写真右は人差し指で押しています。
マイクロスイッチの台座はアルミ板で手作りし、マジックテープに縫い付けました。
指先の当たる部分には、波板フック（プラ屋根を留める）のスポンジを使用しました。



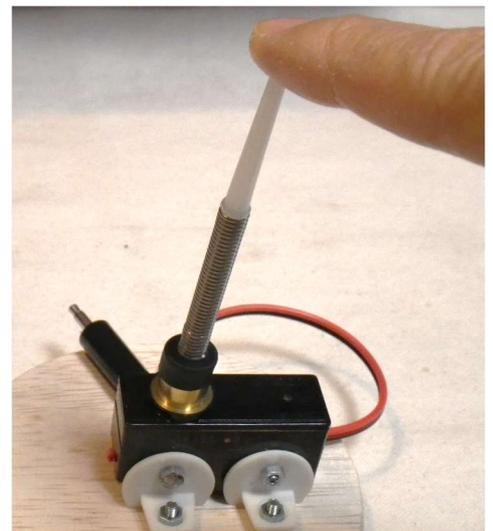
② 面スイッチ

上板のマークの所を、押さえるか、叩けばスイッチが入ります。上板は薄ベニヤ板を切り抜き、台の箱に蝶番で留めています。台の箱は手作りですが、一合枘などを使う例もあるようです。箱の内側手前（緑丸印）にマイクロスイッチを取り付け、フタの動きでスイッチが動作するように調整します。上板のタッチする所に、目印を貼っておきます。



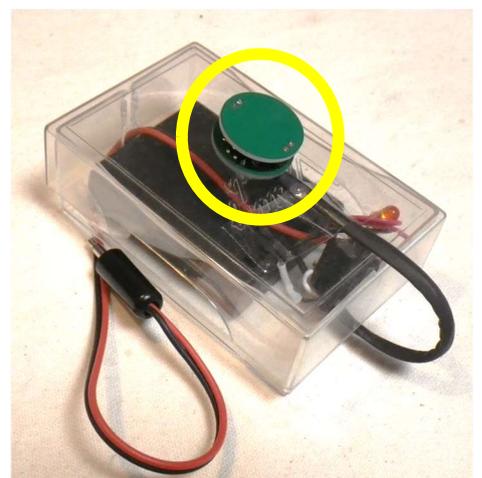
③ 棒スイッチ

棒をどの方向に押しても、触れても、スイッチが入ります。オムロン社のフレキブル・ロッド形のスイッチ（Z-15GNJ55-B）を使うので値が張ります。（本体1500円程）



④ タッチスイッチ

緑色の円盤に触るだけで、スイッチが入ります。市販の“貼るスイッチ”とも呼ばれる静電容量センサー「タッチスイッチ 丸」（黄丸印）を利用するもので、スイッチ本体1300円程の他に、リレー、電池などが必要になります。



試作して見たのは、ほんの一端です。

養護の現場などでも、手作りの様々な試みが行われているようです。

ご意見、ご希望などありましたらお聞かせください。

おしまゆきや toyhosyamato@gmail.com